

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖工業高等学校【定時制】
-----	-------------------

1 前年度 評価結果の概要	・計算力トレーニング等の取組により、生徒の学びに対する意欲が向上した。基礎学力向上と資格取得の取組については、今後も引き続き継続するとともに、各授業の魅力向上にも努める必要がある。 ・各種技能検定試験に多くの生徒が挑戦し、第一種・第二種電気工事士や実用英語技能検定など高い合格率を上げた。各専門の教員が授業以外にも個別指導等を熱心に行った結果だと思われる。 ・生徒の健康や食に関する意識は高いが、スポーツについては、苦手意識を持つ生徒もいる。体を動かすことの楽しさを実感させ、生涯にわたってスポーツを楽しむ習慣を育まなければならない。 ・キャリア教育については、生徒一人ひとりの能力や適性、特性等を見極め、丁寧に対応することができた。次年度は卒業年次生のみならず、全学年の生徒に対し、定時制ならではの将来を見据えた手厚い指導が必要である。
------------------	--

2 SAGASクール・ミッション 学校教育目標	〇県内唯一の工業科・普通科を併置する定時制高校として、個々の学びのニーズに応じた、きめ細かな指導を通して、広い視野を持った社会に貢献できる人材を育成する。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	ア 基本的生活習慣の確立を図る。 イ 学習意欲を向上させ、主体的・自主的な学習態度及び読み解く力を育てる。 ウ 進路指導の充実を図る。 エ 健康管理とスポーツの振興を図る。 オ 志を高める教育の推進を図る。
	① 働きながら学ぶ意欲に満ち、落ち着いて真面目に学習活動に取り組む生徒を求めます。 ② 学校のルールを守り、社会生活の基本を身につける意欲に満ちた生徒を求めます。 ③ 学ぶことの意味を考え、学びを通して自らを高める努力を惜しまない生徒を求めます。 ④ 各種検定や資格取得にも意欲的に取り組むことができる生徒を求めます。	① 生徒個々のニーズに対応した教育課程の編成を行い、適宜、見直しや創意工夫に取りくみます。 ② 生徒の実態に応じた教材の精選、指導の工夫・改善、能力に応じた個別最適な学び等、分かりやすい授業の実践に取り組みます。 ③ 基礎学力の定着と専門教育の充実を図り、学習意欲の向上及び読み解く力を身につけます。 ④ 各種資格取得の意義を理解させ、生徒の主体的な取り組みを図ります。 ⑤ 進学を志す生徒に対して、進学に必要な学力を保障するため、個に応じた学習指導の充実に取り組みます。	① 働きながら学ぶ生活を通して、基本的生活習慣の確立した生徒を育成します。 ② 生徒集団の中で、他者との触れあいを深め、思いやりのある生徒を育成します。 ③ 学習意欲を向上させ、主体的・自主的な学習態度及び読み解く力を育成します。 ④ 学習内容を明確化して、専門性の基礎・基本を重視した指導を行い、創意工夫のできる実践的な技術者を育成します。		

5 重点取組内容・成果指標	最終評価
---------------	------

(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)		学校関係者評価	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	〇基礎学力の定着	〇「計算力アップトレーニング」の積み重ねにより、基礎学力の向上を実感した生徒80%以上を目指す。	・定期的に「計算力アップトレーニング」を実施し、学習の積み重ねによる達成感を持たせる。 ・各教科で基礎学力定着のための時間を確保する。	B	・継続的に問題を解いていくことにより、基礎力の向上につながっている。基礎学力の向上を実感した生徒は78%であり、目標には及ばなかった。今後もこの取り組みに工夫を加え計算力の向上を目指していきたい。	B	・基礎学力の向上を実感した生徒80%以上をぜひ達成してほしい。 ・基礎学力の向上から、興味や関心をもって学ぶことに結び付けられたらと思う。
	〇資格取得の促進	〇資格取得に積極的に取り組ませ、検定合格70%、国家資格取得50%以上を目指す。	・資格取得のための補習を実施する。 ・高度な資格の取得に挑戦する生徒に対し、個別指導を行う。		・計算技術検定4級・3級、パソコン利用技術検定3級はいずれも75%超、危険物取扱者丙種は100%、第二種電気工事士試験、第一種電気工事士試験は100%の合格率で目標を達成できた。		
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇ホームルーム活動等を通して、人権・同和教育や進路保障の学習会を実施し、基本的人権の尊重を重視できる生徒100%を目指す。	・ホームルーム活動等にて、人権・同和教育や進路保障の学習会を実施する。 ・人権・同和教育に関する講話を計画的に実施する。	B	・計画通り人権・同和教育に関する行事を年2回実施できた。生徒対象の学習会では、内容を生徒の現状を踏まえたものにした。 ・担任による学習会やDVD鑑賞を行ったが、今後は外部講師の話を聞く機会も設けたい。	B	・継続して取組を行ってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	〇いじめの未然防止、早期発見、即時対応に向けて、いじめの問題への対応に係る年間計画に基づき、その取組を100%実施する。	・いじめ対応についての職員研修を前期と後期に実施する。 ・定期的に学校生活アンケートを実施して、いじめの早期発見・早期対応に努める。		・学校生活アンケートやいじめアンケートを実施し、今年度のいじめ認知・覚知件数は2件であった。どちらも早期対応したため重大事態には至らなかった。来年度も早期対応に努めていきたい。		
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動の推進	〇佐賀県の良さについて、その理解を深めることができた生徒80%以上を目指す。	・「佐賀語り」を使用して、佐賀県の歴史や文化、自然等について学ばせる。 ・佐賀県について興味を持ったことを学習用PC等を活用して、調べ学習を行わせる。		・「佐賀語り」を通して、佐賀の歴史や自然について、学ぶことができた。また、学習用PCを使い佐賀の魅力についても調べることができた。「さがを誇りに思う教育推進事業」講演会では、参加した生徒の87%が理解を深めることができた。		
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣と自己管理能力の育成」	●「定期健康診断受診100%の実現 ●健康診断結果による受診率50%以上を目指す ●衛生意識を高め、給食前手洗い(及び手指消毒)100%の実現 ●「健康によい食事をしている」アンケート回答100%を目指す	・定期健康診断未済者直接受診指導 ・受診勧奨を定期的に実施 ・保健だより毎月発行、講演会や個人面談を通して健康に関する意識を高める ・給食時、手洗い・マナー等全教師で声掛け徹底を図る ・食育に関する啓発活動を推進する。	A	・受診勧奨を行い、ほぼ100%の受診を達成。 次年度はさらに自発的な受診ができるように工夫を行いたい。 ・給食の喫食率は50%程度であるので担当と協力し、来年度は80%を目標に取り組みたい。 ・行動変容までは至らなかったが、講話を自分事として捉えることができた生徒が多かった。	A	・継続して取組を行ってほしい。
	〇運動習慣の改善や定着化	〇基礎体力・持久力向上のために、授業において、生徒の運動活動に対する満足度を90%以上にする。	・体育の授業を多くの選択科目の中から自分に合った種目を選択できるように改善する。各自が生涯にわたってスポーツに取り組む目標を定めて課題解決をする授業内容を導入する。 ・部活動を通して、生涯スポーツの基礎を身につけさせる。		・選択授業ではなく一斉授業の形で順次実施。集団での活動が難しい生徒がいるので、できるだけ個で活動できる種目を準備するなど工夫した。 ・部活動においては、昨年より半分ほどの活動時間になったが、生徒たちが自分たちで積極的に取り組んでいた。		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・前例に囚われず、業務の効率向上を図る意識を職員間に浸透させる。 ・職員間における業務の偏りがないか随時確認し、年休を取得しやすい環境をつくる。	A	・時間外在校等時間の上限を超える職員は0名。 ・ほとんどの職員が各自のライフスタイルに応じて年休を取得できた。(平均取得は16日を超える) ・管理職自ら積極的に休暇を取得し、休暇を申請しやすい環境を構築できた。	A	・良い傾向だと思う。
●特別支援教育の充実	〇特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	〇特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有		・発達障害等の特性を持つ生徒に対しての教職員の意識向上を研修会を通して向上させることができた。 ・特性を持つ生徒の指導に関し、保健厚生部員と情報交換を行い、個に応じた指導について確認をおこなった。		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)		学校関係者評価	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合90%以上、教職員の割合90%以上を目標とする。	・実践的・体験的な学習機会を積極的に設け、生徒の満足度が高い学びを提供する。 ・SNS等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。		・学校見学会の際に、計算力アップトレーニングのことを説明し、学びなおしができる環境に興味を持って入学希望をする受験生も増加した。 ・一般選抜受検者の8割を超える生徒が学校見学会や入試説明会に参加し、定時制の魅力を知った上で受検をしてくれた。		
	〇★将来を見通したキャリア教育の充実 〇★希望進路の実現のための個別最適な進路指導	〇進路意識が高まったと考える生徒の割合80%以上を目指す。 〇卒業年次生の進路希望(第1希望)の実現率80%以上を目指す。	・キャリア教育講演会、進路講演会等、生徒の実態に応じた講演会を開催する。 ・担任、科、進路指導部、全日進路指導部等と連携を図りながら、生徒一人ひとりに最適な進路指導を行う。		・キャリア教育を通して「働くことの意義」について考えることができた生徒の割合は86%。自分の進路に結びつけることができた生徒は全体で71%。特に2・3年生では85%であった。 ・担任・教科担当・進路の連携を図り、希望進路実現のための個別最適な指導ができた。		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望	●学力向上については、基礎学力向上に向けた取り組みはもちろんのこと、生徒個々に対し最適な教育を施すことができる工夫を継続して模索していきたい。 ●心の教育については、人権・同和教育のさらなる充実に加え、佐賀県(郷土)を誇りに思う教育についても手厚く行っていきたい。 ●健康・体力づくりについては、保健厚生部や保健体育科を中心に、生徒の主体的な健康管理教育を強化し、給食を通して食育の充実にも努めていきたい。 ●業務改善・教職員の働き方改革の推進については、各校務分掌・担任業務の負担が偏っていないか随時チェックを行い、すべての職員が安心して働くことができる職場環境を整備していきたい。 ●特別支援教育の充実については、すべての職員が専門的知識をさらに高め、多様な生徒に対し個別最適な対応ができるように努めていきたい。
--------------------	--